

田中石灰工業

容リプラの設備を更新

効率・省人化の実現へ

容器包装プラのリサイクル事業で実績を広げる田中石灰工業（高知県南国市、田中克也社長、☎0888・888

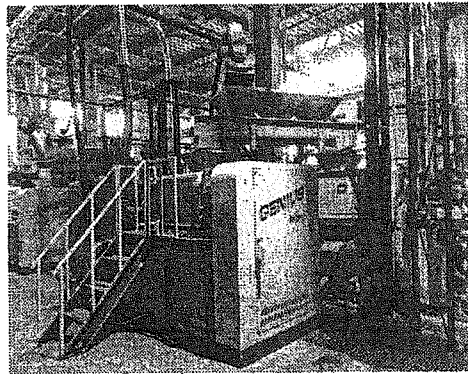
ラインの大幅刷新を計画している。

容器包装プラのリサイクル拠点は現在、高知プラスチック再生セ

2・1158）は、省人化や省エネ、コスト削減に向けた設備更新を進めている。昨年は北海道の工場に脱水造粒機を新規導入し、作業効率を向上した。来年度にも高知の工場

同社は1894年に石灰メーカーとして創業。培った要素技術を生かし、二廃・産廃の収集運搬や中間処理、各種リサイクルへと業容を拡大してきた。昨年5月には「プラスチックリサイクル事業部」を立ち上げ、主力事業として推進している。

センター（北海道三好町）の他、2017年にグループ会社に加わったシティ・サービスが運営する「エコパーク三笠」（同三笠市）の計3工場。今年度の処理量は計3万2866ト



旭川プラスチック再生センターに導入した脱水造粒機

上の見込みで、燃料やパレット原料として供給している。

高知プラスチック再生センターでは17年末に光学選別機を追加し、破集袋機も新設した。旭川プラスチック再生センターでは昨年2月に脱水造粒機を導入し、洗浄から脱水、パレット化までのラインを一新。品質を高め、

導入前と比較して作業効率1割アップ、電気消費量を7%削減した。

これらは環境省の省CO₂型リサイクル等高度化設備導入促進事業や低炭素型廃棄物処理支援事業の採択を受けて実施したもの。田中社長は、「ボトムアップを改善し、事業を拡充するため、今後も積極的な設備投資を行っていく」と話している。